

中国と原油が握る為替の行方

年

明け以降、為替市場では円高ドル安が急速に進み、足元では117円付付近で推移している。中国不安と原油価格下落から世界の金融市場が緊迫化し、リスク回避に伴う円買いが発生したためだ。さらに、この状況を受けて、米国の追加利上げ観測が後退していることも円高ドル安に拍車をかけている。

従って、今後も中国と原油の動向がカギになる。両者ともに根深い問題であるため、根本的・劇的な改善は見込み難く、しばらく円高リスクが高い状況が続く。ただし、3月に入る頃には中国の政策対応や米国の原油減産の兆しなどから、市場の警戒感は一息緩和すると見ている。そうなることで米利上げ観測も回復すると予想され、リスク回避後退に伴う円売りや利上げ観測に伴うドル買いによって、再び円安ドル高に向かうと見ている。なお、今後さらなる株安・円高の進行等を受けて日銀が市場の期待を超える追加緩和に踏み切れば、さらに円安に振れることになる。

ユーロ円でも、年明け以降はリスク回避の円買いが進み、足元では128円付付近にある。従来からのリスク回避局面ではユーロも買われやすかったため、ユーロ円では動きが出にくかったが、現在はECBの追加緩和観測によってユーロ買いが抑制されているためだ。今後はドル円同様、3月に入る頃にはリスク回避の円買いが後退することで、やや円安ユーロ高に向かうと予想する。

長期金利は過去最低レベルである0.2%付近に低下している。日銀の国債買入れで需給の逼迫感が強まっていることに加え、リスク回避による国債需要が金利を押し下げている。今後3ヵ月では、リスク回避の後退と利上げ観測に伴う米金利上昇が金利上昇圧力となるが、需給の逼迫は変わらず、上昇余地は小さい。



シニアエコノミスト 上野 剛志

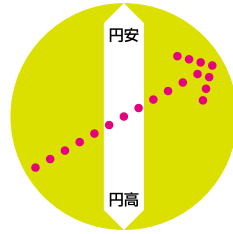
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

98年日本生命保険相互会社入社、
01年同融資部門財務審査部配属、
07年日本経済研究センターへ派遣、
08年米シンクタンクThe Conference Boardへ派遣、
09年ニッセイ基礎研究所(現職)。

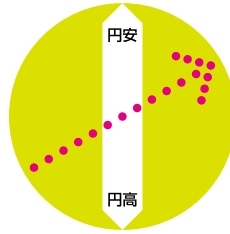


Market Karte

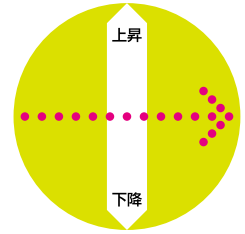
February 2016



ドル円・3ヵ月後の見通し

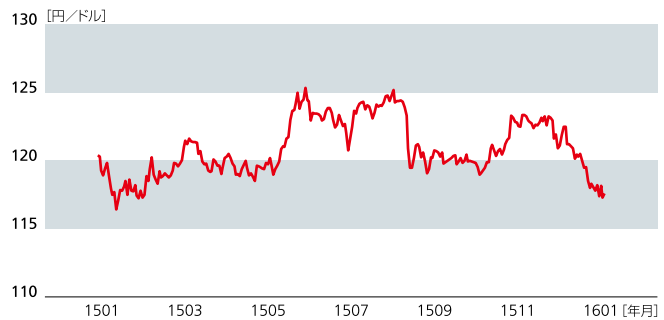


ユーロ円・3ヵ月後の見通し

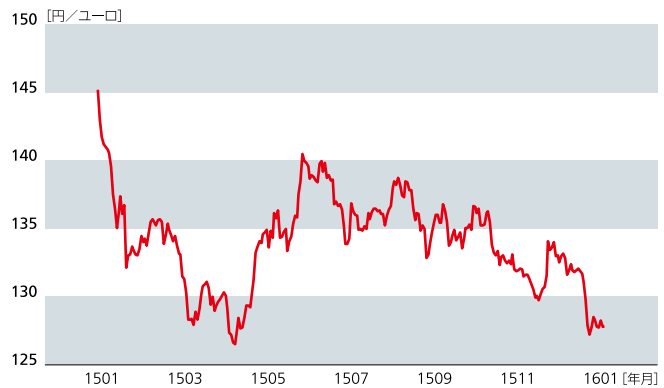


長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

